

小児科研修目標

小児患者の特殊性を理解し患者に安全で両親に安心できる医療を提供する目的に小児疾患の病態を理解し適切な診察、検査、治療を行う能力を身につける

経験すべき診察・検査・治療方法

1、診察法および小児保健医療について理解し実施するために

周産期や小児の各発達段階に応じた適切な医療を提供できる
周産期や小児の各発達段階に応じた心理社会的側面への配慮ができる
虐待について理解できる
学校、家庭に配慮し、地域との連携（小児保健活動）に参画できる
母子健康手帳の理解と活用ができる

2、小児の検査手技に習熟するために

血圧測定、採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺、超音波検査（頭、心、腹部）方法を理解し実施できる
単純レントゲン、CT、MRI、心電図、脳波の読影法を理解し実施できる

3、小児の治療法の特殊性を習熟し実施できるように

医療手技として注射法、静脈ラインのとり方、吸入療法などを経験するとともに、その適応を判断する能力を身につけられる

輸血療法、薬物療法については、患児の年齢、病態における特殊性を十分に理解できるようにする
新生児の蘇生法を経験し、状態を把握する技を身につけられる
小児救急外来における処置（けいれん、喘息発作、脱水等）を実施できる

経験すべき病態と疾患

患者の症状と身体所見、簡単な検査所見に基づき鑑別診断をおこない、初期治療を的確に行えるように以下の疾患を経験する

先天性疾患：心室中隔欠損、ファロー四徴症、不整脈

呼吸器疾患：気管支肺炎、気管支喘息（B）、クループ、急性細気管支炎

消化器疾患：急性胃腸炎、急性虫垂炎、幽門肥厚性狭窄症、腸重積

神経疾患：小児痙攣性疾患（B）、てんかん、脳炎/脳症、熱性けいれん

内分泌疾患：糖尿病、甲状腺機能障害、低身長精査、肥満精査

血液疾患：白血病、血小板減少性紫斑病

腎泌尿器疾患：ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、IgA腎症、水腎症

感染症：ウイルス性感染症（B）；麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ、細菌性感染症；尿路感染症、髄膜炎、溶連菌感染症、

新生児疾患：極低出生体重児、呼吸窮迫症候群、染色体異常、動脈管開存症

その他：川崎病、起立性調節障害、アレルギー性紫斑病

必修項目；小児・成育医療現場を経験すること

（B）疾患については外来診療または受け持ち入院患者（合併症を含む）で自ら経験する